

第五景 屋根にあがる

キーワードは「屋根に上るまで」、「足場を確保するまで」が第1関門です。

- はしごからの転落事故も少なくありません。
- 雪庇を先に処理すること。
- 屋根の端、雪止めの位置を確かめながら進めること。

① 上り口の場所を確保

- 屋根に上る場合、はしごをかける場合は軒側から上るのが基本です。
- 軒側から上る場合、落雪への注意が必要です。

② 上る前の雪庇を落とす

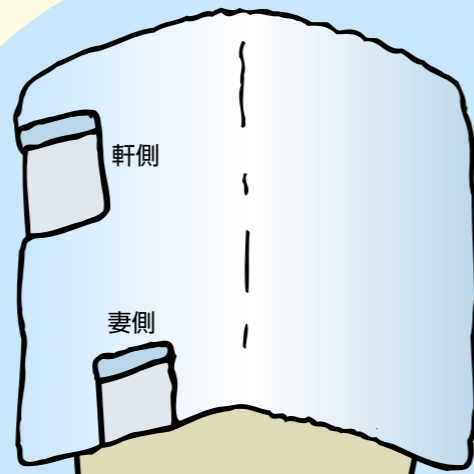
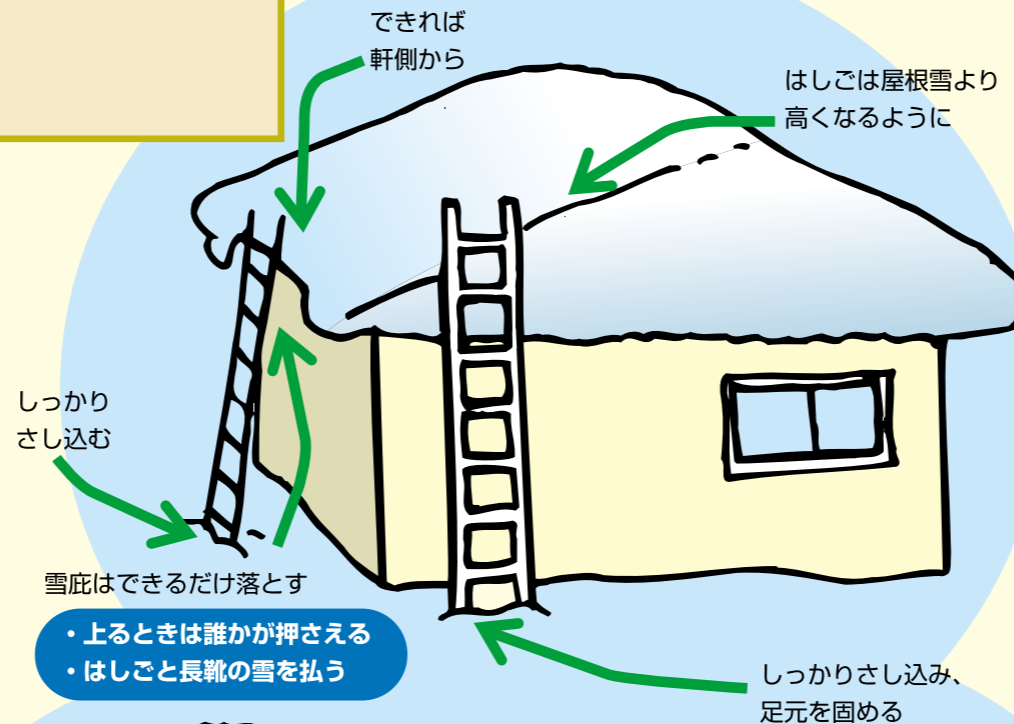
- はしごをかける前に、雪庇をできるだけ落としましょう。
- 絶対に、雪庇の真下に入ってはいけません。

③ はしごのかけ方・上り方

- 足元をしっかりと固めましょう。
- はしごは、屋根雪より高くなるものを。
- 上るときは、下で誰かが押さえること。
- 滑らないよう、はしごと長靴の雪を払うこと。

④ 屋根に上って足場の確保

- 雪庇の上に乗ると、落ちてしまいます。
- 雪止めの位置を確かめ、はしごから屋根への一歩目は慎重に。
- 上る人を「見守る人」を置きましょう。雪庇の突然の落下に備えて、道路や通路も監視しなくてはなりません。



コラム 軒下の危険

- 軒下は、雪庇・巻きだれ・つららが突然落ちてくるかもしれません。足下だけでなく頭の上にも注意し、不用意に近づかないようにしましょう。



ポイント 雪庇落とし専用の道具

- 突然雪庇が落下しケガをする事故が後を絶ちません。
- 高いところにあるので、取り除くのは難しく、長い棒の先に木鋤(こすき)をつけて取り除いたりします。
- 最近は、柄の長い専用の道具も市販されています。
- 絶対真下で作業してはいけません。



上級編 山笠をかぶると達人に見える!?

- 今でも、豪雪地の達人は山笠を愛用しています。
- 上から落ちてくる雪から頭を守り、そして首筋からの雪の吹き込みを防ぎます。そして軽い。
- 万一、柔らかい雪の中に落ちて、顔の周りに空間を作って窒息を防ぐとも言われています。

